

会議録

会議の名称	平成27年度 西東京市青少年問題協議会 第3回
開催日時	平成27年11月25日（水曜日） 午後4時30分から5時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎3階庁議室
出席者	委員：金原委員、小峰委員、佐藤潔委員、佐藤真人委員、住田委員、高橋委員、西嶋委員、西原委員、納田委員、早川委員、山崎委員 事務局：副市長 池澤、子育て支援部長 金谷、子育て支援課長 中尾根、児童青少年課長 齋藤、子育て支援課調整係 阿久津、栗林、田中 欠席者：石井委員、遠藤委員、田口委員
議題	議題1 今期の会議運営について 議題2 その他
会議資料の名称	・会議次第 資料1 西東京市青少年問題協議会委員名簿 資料2 地方青少年問題協議会法 資料3 西東京市青少年問題協議会条例 資料4 西東京市青少年問題協議会条例施行規則 資料5 西東京市青少年問題協議会代理出席要領 資料6 西東京市青少年問題協議会傍聴要領 資料7 第7期西東京市青少年問題協議会報告書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・委嘱式</p> <p>・副市長挨拶</p> <p>○事務局： これより協議会を始める。会長である市長は所用で欠席のため、事務局が進行する。条例に基づき、委員の中から副会長を選出していただきたい。立候補、推薦があればお願いしたい。</p> <p>○金原委員： 前期に引き続き、住田委員を推薦したい。</p> <p>○事務局： ただいま住田委員を推薦するとの声があった。いかがか。</p> <p>（異議なし。）</p> <p>○事務局： 異議なしとのことなので、住田委員に引き続きお願いしたい。</p> <p>○副会長： ・副会長より挨拶</p>	

○事務局：

続いて、職務代理者の指名を行う。会長からは金原委員を指名させていただきたいと聞いている。ご協議をお願いしたい。

○副会長：

職務代理者は事務局からの提案どおりでよろしいか。

(異議なし。)

○副会長：

異議なしとのことなので、金原委員をお願いしたい。

○A委員：

・職務代理者より挨拶

○事務局：

ここからは副会長に進行をお願いします。

○副会長：

会議及び会議録について事務局より説明をお願いします。

○事務局：

会議は原則公開となっているため、傍聴が可能である。会場の広さ、会議の資料作成を考慮すると、概ね5名程度とさせていただきたい。

会議録は第7期と同様「発言者の発言内容ごとの要点記録」とさせていただきたい。あわせて、委員の発言については、各発言者の名前を、A、B、C、D…と表記し、公開している。こちらもこれまで同様とさせていただきたい。

○副会長：

事務局の説明に質問はあるか。なければ、傍聴、会議録等については従来どおりということよろしいか。

○委員一同：

異議なし。

○事務局：

会議の運営についての取り決めは以上である。なお、この会を進行するに当たって、今後副会長を座長と呼ばせていただきたい。

○座長：

それでは議題に入る。今期の会議運営について、事務局に説明をお願いしたい。

○事務局：

資料7について説明する。第7期協議会では、会議運営及び協議テーマの設定について議論を重ねていただいた。資料の2ページ以降に、協議会における主な意見・議論等が載っている。これらを受けて、第8期のテーマを「地域力の低下している中で、青少年をどのようにささえていくか。地域の資源と活動を、調査する。」と決めた。

○座長：

青少年として扱う年齢について、東京都は、幼児期から扱っているが、西東京市は第1期協議会のときに、原則として小学校の中学年以上を対象とすると決めた。このことについてお考えを伺いたい。

○A委員：

育成会に参加して話を聞いていると、小学校でも随分いろいろな問題があると感じるので、中学生からというよりは小学生からのほうが良いと思う。

○B委員：

保育園でももういじめのようなことがあると聞いた。保育園まで下げる必要はないが、小学校の中学年よりも学年をあげるというのは考えづらい。

○C委員：

いじめや不登校気味という問題が顕在化してくるのが小学校中学年だ。3年生はギャングエイジといわれ、急に変わる。低年齢化もわかるが、青少年という観点で考えると、今までどおりの中学年の方が分かりやすいのではないか。

○D委員：

青少年というと中高生のイメージがあったが、SNSのようなものはまさに小学校の中学年くらいから始めて、実際にトラブルも起こる。小学校中学年くらいからという線引きがいかと思う。

○E委員：

表現力や行動力が身に着くことで、潜在的に持っていた非行的な行動行為が顕在化してくのが小学生だと思う。ここで話し合う内容が、行動や言動をどうするかということなら小学校の高学年・中学年でいいが、その前段階の内面的なことを扱うなら小学校1年生を含めるのも1つの考え方だと思う。

○座長：

今期のテーマも加味して、どのようにお考えになるかお伺いしたい。

○A委員：

今小学校でも、年齢に関係なく自分で自分を守ることが言われている。なるべく低年齢層の人にも、また、親も含めて話を持っていくことが大事かと思う。

○F委員：

委員には育成会の代表の方も入っている。育成会の方は小学校を中心に活動されていて、その場でいろいろな問題を感じている。今期のテーマを考えると、小学校から対象にして、地域の育ちを検討していくといいのではないか。

○座長：

今のご意見のあたりで今期の話し合いを絞って行ってよろしいか。

小学校以上の子たちについて、前期で決まったテーマを基に、2年間皆さんとお話し合いをしながら探っていきたいと思う。

次回の協議会はあらためて調整する。

以上